

## 「シジュウカラ営巣開始」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

4月になると、高原は小鳥の声で賑やかになる。特に多いのがシジュウカラ、コガラ、ヤマガラの3種類だ。シジュウカラは都会でも繁殖するが、標高1100mの浅間高原でも一番よく見かける鳥類である。

4月下旬になると、シジュウカラが営巣を始める。巣草をくわえたシジュウカラが木の枝にとまっているのを見かけたら、大抵はすぐそばに適当な営巣地を見つけた証拠だ。



「巣草をくわえたシジュウカラ」4月25日

カエデの枝にとまっているが、すぐには巣箱に運び込まない。盛んに「ジージー」という警戒音で鳴いて、周囲の「同僚」を追っ払ったあとに、急いで巣箱に運び込む。



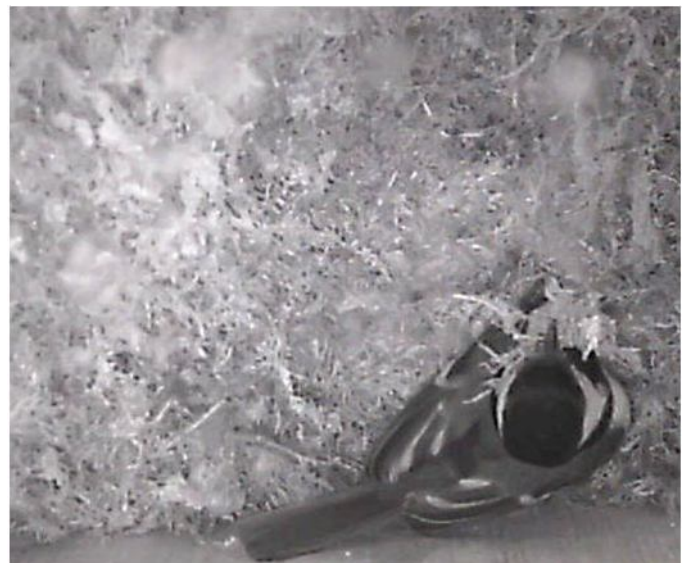
運んでくる巣草で、一番多いのはミズゴケだ。この時くわえていた巣草は、何かの地衣類のようだ。

シジュウカラもヤマガラも、木の「うろ」やアカゲラ(キツツキの一種)が空けた穴に巣をつくる。これを「樹洞性営巣」という。しかし、都会はもちろん、北軽井沢でも、彼らにとっては慢性的な住宅難になっている。放っておくと、雨戸の戸袋や郵便ポスト、伏せた植木鉢にまで巣を造ってしまう。

そんなわけで、人工的な巣箱を架ければ、高確率で営巣をする。私は地元の木工名人に設計図を渡して、カメラ内蔵可能な特注巣箱を造ってもらった。これは今のところ毎年、ヤマガラかシジュウカラが100%営巣している。今回もヒナの成長が楽しみだ。



「内部にカメラ設置可能な特注巣箱」



「巣箱にミズゴケを運び込んだシジュウカラ」